

2018年3月14日

富士ゼロックス神奈川株式会社

富士ゼロックスの高度な複写技術を駆使し、 横浜開港画卷『金河奇勝』を複製、文化伝承に貢献

富士ゼロックス神奈川社長から神奈川県立公文書館に贈呈

富士ゼロックス神奈川株式会社（本社：横浜市 社長：加藤 千晶）は、伝統文化継承に貢献する活動の一環として、神奈川県立公文書館（館長：井村 浩章氏）所蔵のペリー来航の様子を伝える横浜開港画卷「金河奇勝」^{注1}の複製を製作、3月29日、公文書館で行われる贈呈式で当社社長から井村館長に贈呈いたします。贈呈するレプリカは4月17日から神奈川県立公文書館で開催される企画展「明治維新と神奈川県」で展示され、その後、教育活動やイベントなどで利用される予定です。

古文書などの伝統文書の原本は劣化のおそれがあるため展示期間も限られるほか、不特定多数の閲覧者が手で触れることができないことが一般的ですが、複製品であれば、所蔵者は劣化の心配なく展示できます。また、直接手にとり感触も確かめることができるため、文化伝承に貢献できます。



『金河奇勝』の複製

複製品製作にあたっては、富士ゼロックスのカラーマネジメント技術を活用し、電子化した画像情報を和紙に出力して原本の風合いを再現させました。出力においてはグラフィックアーツ市場向け高画質フルカラー複合機を活用し、表面に凹凸がある和紙にトナーを定着させるための特殊な設定を加え、複製品を製作しました。また、出力和紙は原本で使われているものと同じ厚さ、こし、密度等の特性を持つ「越前生漉奉書」^{注2}（人間国宝、九代目岩野市兵衛氏の手漉き和紙）を使用しております。

富士ゼロックスは、社会貢献の一環として伝統文書の複製を通じた文化伝承活動を2008年から実施。現在は研究・開発の主要拠点である富士ゼロックス R&D スクエア（神奈川県横浜市）および京都を拠点とし、これまで神社仏閣、市町村、大学、企業などに250点以上の複製品を贈呈しています。

富士ゼロックス神奈川は、1981年の創業よりお客様から信頼され、なんでも相談していただける地元密着の会社として、卓越した価値、よりよい商品やソリューション・サービスを提供し続けております。今後も当社は、富士ゼロックスとの協業のもと、より一層高度な複写技術を生かした文化の伝承のための社会貢献活動を実施するとともに、自社の複合機や保有技術を活用したソリューション・サービスを提供し、神奈川県内の地域社会の発展や活性化に貢献してまいります。

注1：『金河奇勝（かながわきしょう）』（1854年、縦30cm×横1500cm）：幕末の南画家 春木南冥（はるきなんめい）の作品。

注2：「越前生漉奉書」は江戸時代、将軍等高位者から意思・命令を伝えるために使われていた和紙。現代ではその耐久性、伸縮性の少なさ色彩の冴えなどの特性から多くの版画家に支持され、八代目・市兵衛氏の漉いた奉書は、ピカソも版画用紙として愛用していたといわれている。